

# お台場海浜公園 旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4月）報告書

2023年5月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

## 1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内防波堤において鳥類の利用状況や、経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査対象地域

お台場海浜公園旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

## 3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和5年4月22日（土）	8:00~14:00	曇り

## 4. 調査方法

各調査項目において、倍率8~10倍程度の双眼鏡や倍率20~60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、(2)~(4)の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として(5)の調査を実施した。

### (1) 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

### (2) ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1~2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査(※調査回の定義については後述する)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から100日間であった(第8回冬季調査～第8回春季調査)。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

## 5. 評価方法

### (1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 8 回の春季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季

### (2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種 *①:準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

## 6. 調査結果

### (1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、9 目 21 科 28 種が確認された (表 4)。
- 確認種の約半数は水域及びその周辺に生息する種として 15 種 (カルガモやカワウ、セグロカモメ等) が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 6 種 (シジュウカラやカワラヒワ、アオジ等) が確認されたほか、都市部で見られる種として 4 種 (ツバメやスズメ、ドバト等)、様々な環境で見られる種として 3 種 (キジバト、トビ及びハシブトガラス) が確認された (表 4)。
- 渡り区別にみると、留鳥 (ある地域で一年中見られる種) の確認種数が最も多く、19 種 (アオサギやハシブトガラス、スズメ等) が確認された。次いで冬鳥 (ある地域で冬に見られる種) が 7 種 (スズガモやセグロカモメ、ツグミ等)、夏鳥 (ある地域で夏に見られる種) が 2 種 (コチドリ及びツバメ) 確認された。
- 重要種はスズガモ、イツブリ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、オオバン、コチドリ、イソシギ、ウミネコ及びトビの合計 10 種が確認された (表 4)。島内では、護岸で採餌や休息するオオバン、コチドリ及びイソシギ、砂地で休息するスズガモが確認された。島外では、海域で採餌するカイツブリ及びカンムリカイツブリ、遊泳するスズガモ及びオオバンが確認された。島内外では、上空を通過するダイサギ、コサギ、ウミネコ及びトビが確認された。
- 外来種はドバトが確認された (表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 206 個体 (表 5)、ラインセンサスでは両島で合計 81 個体が確認され、優占度は東島で 76%、西島で 23% を占めた (表 6)。定点観察調査では両島で合計 63 個体 (表 7) が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や島内外の上空を通過する個体が確認された。また、両島において東島で 101 箇所、西島で 80 箇所の営巣が確認された (繁殖への影響を考慮し、遠方からの視認のため概算とする)。また、両島において親鳥が抱雛する様子や巣内雛が確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種はスズガモであった。船上センサスでは両島で合計 8 個体 (表 5)、ラインセンサスでは東島で合計 5 個体 (表 6) と少なかったが、定点観察調査では両島で合計 50 個体 (表 7) が確認され、特に西島での個体数が多かった。主に砂地で休息する個体や、海域で遊泳及び休息をする個体が確認された。
- 比較的確認個体数が多かった種はユリカモメやアオサギであった。ユリカモメは船上センサスでは両島で合計 30 個体 (表 5)、定点観察調査では両島で合計 28 個体 (表 7) が確認された。主に台場方向から鳥の島の上空を通過する個体が多か

った。アオサギはラインセンサスでは両島で合計3個体(表6)、定点観察調査では両島で合計4個体(表7)と少なかったが、船上センサスでは両島で合計27個体(表5)が確認された。主に鳥の島の広葉樹や護岸でとまる個体や上空を通過する個体数が多かった。

## (2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表8に確認種、表9に船上センサス結果、表10にラインセンサス結果、表11に定点観察結果、表12にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第7回(前回調査)と第8回(今回調査)の確認種数は、第7回では東島で22種、西島で22種、合計26種、第8回では東島で27種、西島で19種、合計28種であった(表8)。第7回及び第8回で確認された共通種は24種となり、第8回の確認種全体の9割程度であったことから、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第7回で確認されず第8回で確認された種はカイツブリ、オオバン、ムクドリ及びツグミの4種であった(表8)。今回、カイツブリは初記録となり、餌場として鳥の島周辺に飛来したものと考えられる。また、冬鳥であるオオバンやツグミは、第3回、第7回を除く春季調査において、ムクドリも、これまでの現地調査において定期的に観察されている種である。
- 第7回で確認され第8回で確認されなかった種はチュウシャクシギ及びキョウジョシギの2種であった(表8)。チュウシャクシギ及びキョウジョシギは、不定期的に記録されている種であり、今回は確認されなかったが、今後も記録される可能性がある。
- 第7回より第8回で確認個体数が増加した種はスズガモであった(表9、10、11)。前述した通り、主に砂地で休息する個体や、海域で遊泳及び休息をする個体が確認された。お台場海浜公園の近くで遊泳していた群れが、鳥の島方向へ移動してきたことで、確認個体数が増加したと考えられる。

## (3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類6目6科6種、哺乳類1目1科1種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではカルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ及びハシブトガラスの6種、哺乳類ではドブネズミ1種が確認された。
- 自動撮影カメラにおいて、枝をくわえるカワウが多数撮影された。本種は巣材採集をしていたものと考えられ、自動撮影カメラの上部や周辺の広葉樹に多数の営巣地が確認された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					春季(4月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	○					NT
4			カンムリカイツブリ	冬鳥	○	○				*②
5	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
6	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
7	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
8			ダイサギ	留鳥	○					NT
9			コサギ	留鳥	○					VU
10	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥		○				CR
11	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○	○				CR
12		シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
13		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
14			ウミネコ	留鳥	○	○				*①
15			セグロカモメ	冬鳥	○	○				
16	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
17	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
18		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○					
19		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○					
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
21		メジロ	メジロ	留鳥	○					
22		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○					
23		ヒタキ	ツグミ	冬鳥	○					
24		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
25		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
26		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○					
27		ホオジロ	アオジ	冬鳥	○	○				
28	ハト	ハト	ドバト	留鳥	○	○				
合計	9 目	21 科	28 種	-	27 種	19 種	0 種	0 種	0 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				春季(4月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	3	11	14
2			スズガモ	8	0	8
3	カツオドリ	ウ	カワウ	127	79	206
4	ペリカン	サギ	アオサギ	17	10	27
5			ダイサギ	2	0	2
6	ツル	クイナ	オオバン	0	3	3
7	チドリ	シギ	イソシギ	2	4	6
8		カモメ	ユリカモメ	10	20	30
9		セグロカモメ	1	0	1	
10	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	1	3
11		セキレイ	ハクセキレイ	1	0	1
合計	6 目	8 科	11 種	173	128	301
				10 種	7 種	11 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				春季(4月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	3	3%	6	27%	9
2			スズガモ	5	5%	0	0%	5
3	ハト	ハト	キジバト	1	1%	1	5%	2
4	カツオドリ	ウ	カワウ	76	76%	5	23%	81
5	ペリカン	サギ	アオサギ	2	2%	1	5%	3
6			ダイサギ	1	1%	0	0%	1
7			コサギ	4	4%	0	0%	4
8	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	3	14%	3
9	チドリ	チドリ	コチドリ	1	1%	2	9%	3
10		シギ	イソシギ	1	1%	0	0%	1
11		カモメ	ウミネコ	0	0%	1	5%	1
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	3	3%	0	0%	3
13		スズメ	スズメ	2	2%	3	14%	5
14		ホオジロ	アオジ	1	1%	0	0%	1
合計	7 目	11 科	14 種	100	100%	22	100%	122
				12 種	8 種	14 種		

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				春季(4月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	2	3%	2	11%	0	0%	4
2			スズガモ	0	0%	9	13%	1	6%	40	82%	50
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1
4	カツオドリ	ウ	カワウ	28	43%	35	49%	0	0%	0	0%	63
5	ペリカン	サギ	アオサギ	2	3%	1	1%	1	6%	0	0%	4
6	ツル	クイナ	オオバン	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	1
7	チドリ	チドリ	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	1
8		シギ	イソシギ	1	2%	0	0%	1	6%	1	2%	3
9		カモメ	ユリカモメ	14	22%	13	18%	1	6%	0	0%	28
10			ウミネコ	3	5%	1	1%	0	0%	2	4%	6
11			セグロカモメ	0	0%	0	0%	3	17%	1	2%	4
12	タカ	タカ	トビ	0	0%	0	0%	4	22%	0	0%	4
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	10	15%	1	1%	3	17%	0	0%	14
14		ツバメ	ツバメ	1	2%	2	3%	0	0%	0	0%	3
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	2%	2	3%	0	0%	2	4%	5
16		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	2
17		ヒタキ	ツグミ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1
18		スズメ	スズメ	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	2
19		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	1	6%	1	2%	2
20		アトリ	カワラヒワ	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%	3
21	ハト	ハト	ドバト	0	0%	2	3%	0	0%	1	2%	3
合計	9 目	18 科	21 種	65	100%	72	100%	18	100%	49	100%	204
				10 種	13 種	10 種	8 種	21 種				

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)		春季(4月)	
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	スズガモ	○	○	○	○
3	カイツブリ			○	
4	カンムリカイツブリ	○	○	○	○
5	キジバト	○	○	○	○
6	カワウ	○	○	○	○
7	アオサギ	○	○	○	○
8	ダイサギ	○	○	○	
9	コサギ	○	○	○	
10	オオバン				○
11	コチドリ	○	○	○	○
12	チュウシャクシギ		○		
13	イソシギ	○	○	○	○
14	キョウジョシギ		○		
15	ユリカモメ	○	○	○	○
16	ウミネコ	○	○	○	○
17	セグロカモメ	○		○	○
18	トビ	○		○	○
19	ハシブトガラス	○	○	○	○
20	シジュウカラ	○	○	○	
21	ツバメ	○		○	
22	ヒヨドリ	○	○	○	○
23	メジロ	○		○	
24	ムクドリ			○	
25	ツグミ			○	
26	スズメ	○	○	○	○
27	ハクセキレイ	○	○	○	○
28	カララヒワ	○	○	○	
29	アオジ		○	○	○
30	ドバト		○	○	○
合計	30 種	22 種	22 種	27 種	19 種
		26 種		28 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		春季(4月)		春季(4月)	
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	14	15	3	11
2	スズガモ	9	0	8	0
3	カンムリカイツブリ	2	0	0	0
4	カワウ	115	40	127	79
5	アオサギ	5	6	17	10
6	ダイサギ	0	0	2	0
7	オオバン	0	0	0	3
8	イソシギ	1	0	2	4
9	ユリカモメ	0	0	10	20
10	ウミネコ	2	0	0	0
11	セグロカモメ	0	0	1	0
12	ハシブトガラス	2	2	2	1
13	シジュウカラ	1	3	0	0
14	ハクセキレイ	0	0	1	0
15	カララヒワ	0	1	0	0
合計個体数		151	67	173	128
合計島別種数		9種	6種	10種	7種
合計種数		10種		11種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		春季(4月)				春季(4月)			
		第7回(R3~R4)				第8回(R4~R5)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カルガモ	1	1%	6	7%	3	3%	6	27%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	5	5%	0	0%
3	キジバト	0	0%	0	0%	1	1%	1	5%
4	カワウ	73	85%	44	50%	76	76%	5	23%
5	アオサギ	0	0%	0	0%	2	2%	1	5%
6	ダイサギ	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%
7	コサギ	0	0%	0	0%	4	4%	0	0%
8	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	3	14%
9	コチドリ	0	0%	0	0%	1	1%	2	9%
10	イソシギ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
11	ウミネコ	0	0%	2	2%	0	0%	1	5%
12	ハシブトガラス	2	2%	2	2%	3	3%	0	0%
13	シジュウカラ	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
14	スズメ	1	1%	2	2%	2	2%	3	14%
15	カワラヒワ	6	7%	31	35%	0	0%	0	0%
16	アオジ	0	0%	1	1%	1	1%	0	0%
合計	16種	86	100%	88	100%	100	100%	22	100%
		7種		7種		12種		8種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		春季(4月)								春季(4月)							
		第7回(R3~R4)								第8回(R4~R5)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カルガモ	2	11%	0	0%	12	18%	10	10%	0	0%	2	3%	2	11%	0	0%
2	スズガモ	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	9	13%	1	6%	40	82%
3	カンムリカイツブリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
4	キジバト	0	0%	1	6%	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
5	カワウ	2	11%	3	18%	37	57%	53	54%	28	43%	35	49%	0	0%	0	0%
6	アオサギ	2	11%	0	0%	4	6%	1	1%	2	3%	1	1%	1	6%	0	0%
7	ダイサギ	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%
9	コチドリ	1	6%	0	0%	0	0%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
10	イソシギ	1	6%	1	6%	2	3%	0	0%	1	2%	0	0%	1	6%	1	2%
11	キョウジョシギ	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	ユリカモメ	2	11%	5	29%	0	0%	6	6%	14	22%	13	18%	1	6%	0	0%
13	ウミネコ	2	11%	0	0%	0	0%	2	2%	3	5%	1	1%	0	0%	2	4%
14	セグロカモメ	0	0%	2	12%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	17%	1	2%
15	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	22%	0	0%
16	ハシブトガラス	2	11%	0	0%	1	2%	1	1%	10	15%	1	1%	3	17%	0	0%
17	シジュウカラ	1	6%	2	12%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	2	3%	0	0%	0	0%
19	ヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	2	3%	0	0%	2	4%
20	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%
21	ツグミ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%
22	スズメ	0	0%	2	12%	1	2%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%
23	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	1	6%	1	2%
24	カワラヒワ	2	11%	0	0%	4	6%	16	16%	3	5%	0	0%	0	0%	0	0%
25	ドバト	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	1	2%
合計	25種	18	100%	17	100%	65	100%	98	100%	65	100%	72	100%	18	100%	49	100%
		11種		8種		10種		10種		10種		13種		10種		8種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○								
2	ヒドリガモ									○	○				○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ												○	○	○		
6	オナガガモ				○	○	○			○				○			
7	コガモ							○						○			
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○	○	○
9	キンクロハジロ										○						
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ													○			
12	ウミアイサ		○						○	○	○		○	○		○	○
13	カイツブリ															○	
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ミミカイツブリ			○								○					
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ					○											
20	ササゴイ		○														
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	チュウサギ									○							
24	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	カッコウ科の一種											○					
27	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○	○	○
28	ヤマシギ												●				
29	タシギ								○								
30	チュウシャクシギ														○		
31	キアシシギ									○							
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ					○	○								○		
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ	○	○			○											
37	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○		
39	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○								
40	ミサゴ	○		○			○		○		○	○					
41	ハチクマ	○															
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期																
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)		
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	
43	ハイタカ		○		○					○								
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●		○	
45	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○		○	
46	オオコノハズク														●			
47	カワセミ			○			○			○		○		○				
48	チョウゲンボウ		○				○	○									○	
49	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○			
50	モズ			○	○	○	○	○	○	○				○				
51	カケス				○													
52	オナガ			○	○	○	○			○								
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
54	ヤマガラ											○						
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
56	ヒバリ						○											
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
59	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	
60	オオムシクイ								○			○						
61	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
62	オオヨシキリ			○		○				○	○	○						
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
64	コムクドリ				○	○												
65	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○		○	
66	アカハラ	○			○				○			○						
67	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
68	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○			○		○	○	○	○	○
70	キビタキ	○				○												
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ			○														
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	セグロセキレイ				○							○						
75	タヒバリ						○				○							
76	カララヒ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	シメ							○				○						
78	ホオジロ	○		○	○			○		○							○	
79	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	オオジュリン			○						○								
81	ドバト	○	○					○			○	○	○	○	○	○	○	○
合計	81 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	41 種	41 種	34 種	36 種	
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		49 種		48 種		39 種		

注 1. ●: 自動撮影カメラのみで確認された種を示す。

 <p>カルガモ</p>	 <p>スズガモ(重要種)</p>
 <p>カイツブリ(重要種)</p>	 <p>カンムリカイツブリ(重要種)</p>
 <p>カワウ</p>	 <p>アオサギ</p>
 <p>オオバン(重要種)</p>	 <p>コチドリ(重要種)</p>

写真 2(1) 確認された主な鳥類

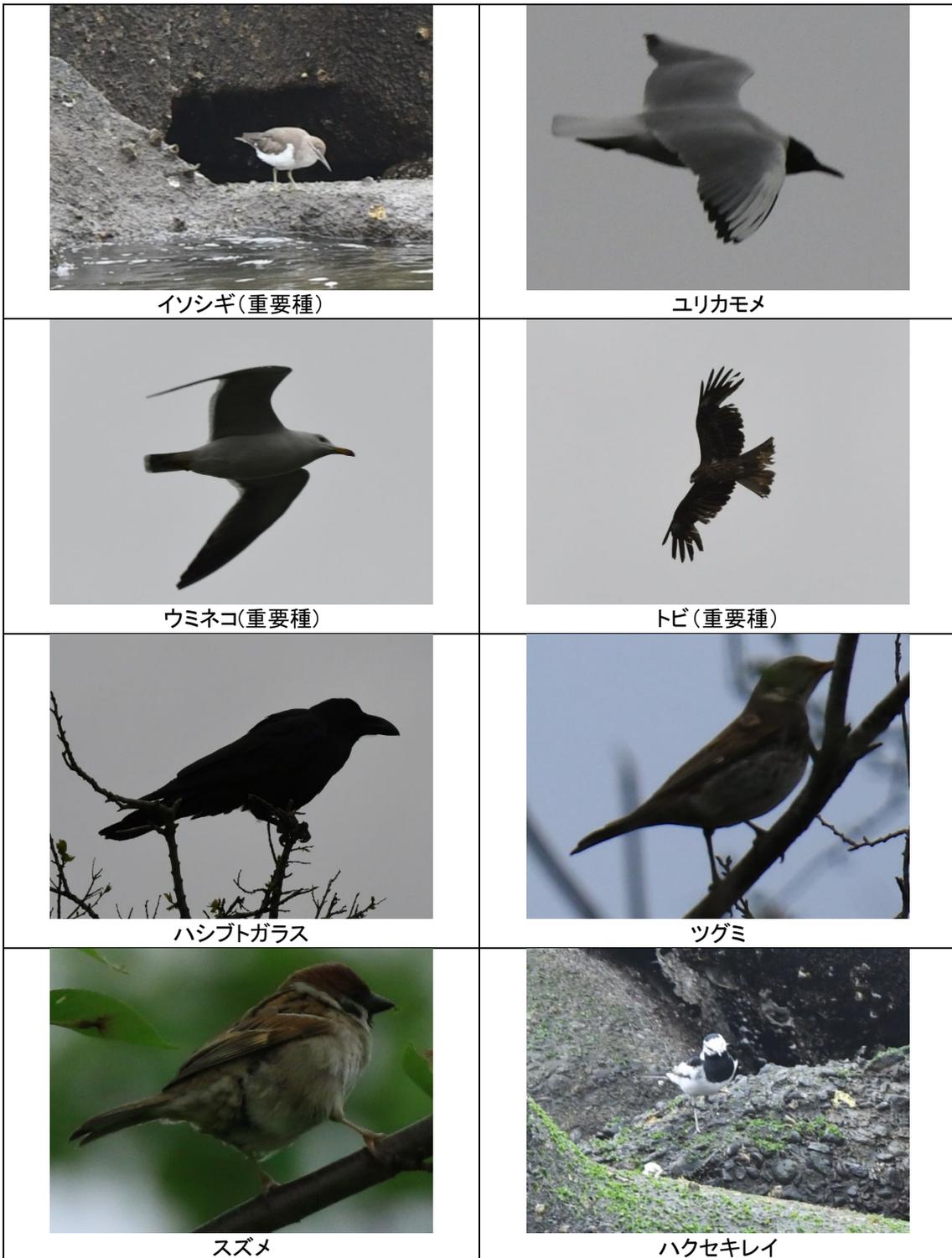


写真 2(2) 確認された主な鳥類



写真3 自動撮影カメラで確認された生き物